高蔵寺どんぐりｓ

ふれあいだより

NO 140

2023. 12. 10

ＮＰＯ法人　高蔵寺どんぐりｓ発行（☎090-1566-7767）

11月の「どんぐりｓカフェ」

高森山の木で独創的「ペン立て」

11月18日の「どんぐりｓカフェ」は、「高森山の木を活かして、『マイペン立て』を作ろう」と題し、木工教室を開催しました。小学生15人、保護者11人が参加し、熱心に作品作りに取り組みました＝**写真**。

ペン立て作りは、予め切断した材料を組立図に従って接着させる工程で進めましたが、途中の寸法で微妙な箇所があったりして、子供さんより親御さんの方が熱心に取り組む姿勢が垣間見られました。組立図を事前に交付してあったとは言え独自の組み立てをするなど想像もつかない接着を披露してくれたり驚きの発見の場でもありました。

ほぼ、接着を完成させ今回の本題となる「高森山の木とどんぐり類の飾り付け」になると、熱気はさらにヒートアップ、いろいろな種類のどんぐり類を立体的に取り付けたりして接着剤が不足するグループもありました。十分親子で楽しめたものと思います。次工程のコマ回し大会では「マイコマ」とするために最初に着色を施す工程があり、これまたビックリの着色方法を拝見させてもらいました。（コマを手で回転させ油性ペンを近づけて色付け）［こけし人形作りでは材料が固定されており、回転させながら着色するのは一般的に行われる工程］・・・・・・発想が大胆かつおおらかでとてもむつかしい作業。チャレンジ精神にバンザイ!!!!!!

最後の「コマ回し大会」では学年別にコマ回し競争を行いましたが昨今の子供さんの遊びの中に自分の手でコマを回す経験が少なく、最初はうまく回せない子供さんがチラホラ、とは言え子供は遊びの天才。「コマ回し大会」の時までにはほぼ、うまく回せていました。コマ回し大会はワイワイガヤガヤ大騒ぎの中でそれぞれ

の学年ごとに勝者を決め、菓子類の賞品を渡した。家に持ち帰ってから何回コマ回しをして遊んでくれるかな????

昨今はテレビゲーム、スマホ、等電子機器の遊びが主流であり、昔のような手作りの喜びを楽しむのは、過去のものとなったようです。なんとか手作りの良さを復活させたいものです。

最後に子供たちからの感想の中に「自然の大事さが分かった」の一言があり、私達主催者側として大いにうれしく、勇気づけられました。

（加藤　善夫）

すまい困りごと無料相談

●電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956（長谷川）
面接相談会日・会場
12月16日（土）グルッポふじとう
1月14日（日）グルッポふじとう
（いずれも13：30～15：30）
○当会会員の一級建築士が相談に応じます。

くらし相談「ハート・ほっと・ルーム」

●開催日・会場
12月24日（日）養楽福祉会たかもり
1月28日（日）養楽福祉会たかもり
＝春日井市高森台5-6-6
（いずれも13：30～17：00）
参加費；無料
連絡先；☎090-6330-4393（浪川）

「すまい相談会」
相談員に強力新人
一級建築士の3人態勢に

「高蔵寺どんぐりｓ」の看板活動の「すまい相談会」の相談担当者員に強力ルーキーが加わりました。名古屋市で「アトリエ祥建築設計」を主宰する、一級建築士の鈴木祥司さんです。藤山台にお住まいで、NPO法人「名古屋歴史まちづくりの会」の理事です。趣味は、囲碁、テニス。また、昔していた陶芸を再開したいとのことです。

■鈴木祥司さんのコメント

・住宅設計についての想い

人の有り様に付いて十人十色と言われますが、住宅に於いても百家百様です。近年の温暖化による気象を例外とすれば、愛知県地方は温暖で緩やかな気候なのであまり風土・気候を意識せずに過ごせますが、しかし日本の風土、民族性から生まれてくる“あしらい”が有ります。実は私的には、日本の気候は亜熱帯性気候の中に雨期（梅雨）やモンスーン（台風）などの気候嵐があり、“冬”という季節がくっついている風土だと思っています。だから素晴らしく楽しい四季があり、民族性も日本ならではのものがあり、多様な伝統が生まれ、豊かな生活と人生が有るのではと。それに伴った百家百様の家づくりがしたいですね。

・すまい相談会について

木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造それぞれの老化と故障が発生します。また家族構成や年齢に依る住まい方の変化などで改装、改築、減築、防災の必要が生まれてきます。お気軽にご相談ください。

●「すまい相談会」は今後、これまでの山上薫さん、私（長谷川）に加え３人体制で月１回（原則第2日曜）、グルッポふじとう3階で開催していきます。　**（長谷川　光男）**

11月29日の高森山整備実習体験に高森台小学校の5年生50人が参加。ビートルベットに積んだ落ち葉をはしゃぎながら踏み固めた。山頂ではハンモックも楽しんだ。

私の朝・昼・晩

高森山賛歌

高蔵寺ニュータウンに住み始めて50年ほどになる。住み始めは、高森山という山があることは聞いてはいたが、日常の雑事に追われ付近のことは気にもしていなかった。まだ、サンマルシェなどの施設が整う前のことだ。時がたち２０年ほど前に初めて高森山を訪れ、突然足元に落ちていた「エビフライ」（リスが食べた跡のマツボックリ）と出会った。それは駐車場から配水タンクや東屋を抜けた先、コンクリート製のベンチに腰を下ろした時だった。「ここにエビフライ？！」と思い信じられないくらいだったが、間違いなくリスの食痕。それからだ、高森山への日参が始まったのは。週末の休日が待ち遠しかった。

配水タンク前から登り始めると結構太いマツの木が目に付く。コナラなどもそこそあったように思う。頂上に着くと背の低いツツジやヒサカキなどがあり、高い木はマツぐらい。。ツツジの花にギフチョウの姿もあり、写真に収めた。北斜面にはカンアオイが生え、淡い黄緑色のギフチョウの卵も確認した。

春日井市の許可を頂いてリスのための給餌台も設置、保護活動も進めていった。数年間は順調だったが、給餌の消費も時が経ち急激に減った。そして、ゼロに。１８年間ほど続いた給餌活動もできなくなった。そのころ、高森山のマツが赤く色づいてバタバタ倒れていった。原因は松枯れ病。全国で見られた。マツの実はリスの大好物で、ほぼ年間を通して食べることができる大事な食糧である。

２０年を超え高森山と向き合ってきた今、カシの木など上空を覆い尽くし暗くなった森。これを明るい森に整備・改善すれば、地面に草が生え、ウサギやギフチョウ、マツの木にリスを蘇らせ、足元の「エビフライ」を子供たちとともに拾いあえる楽しい高森山になるのではないかと心が躍る。

（采女　秀世）